

カタバミで10円玉をピカピカに

くろ 黒っぽくなった10円玉 えんだま
を元のピカピカ10円玉に えんだま
もどせる雑草があります。 えんだま
ざっそう
はる 春から秋、あき 小さなちい 黄色い花 きいろ はな
をさ 咲かせるカタバミがその
一つです。見つけて、10円 えん
だま 玉をみがいてたしかめてみ
てください。



花



実

カタバミを見つけよう

カタバミは、花、実、草丈、葉の形で見分けられます。小さな黄色い花は、5枚の花びらが根元で一つにつながっています。実は細長く、熟したものにふれると、種がバチバチと勢いよく飛び出します。草丈は、茎の途中から根が出て、はってのびるので低く、葉は切れ込みがあってハート型で、3枚ずつ



半分みがいた10円玉

ついては、葉は、シロツメクサに似ていますが、切れ込みがある方がカタバミです。カタバミがよく生えているのは植木鉢や、庭や公園のかたすみです。

見つけたら、黒っぽい10円玉をカタバミの葉や茎で20回程強くこすってみましょう。まるで新品のようなピカピカの10円玉にかわりますよ。

ピカピカにするのは酸

ピカピカにするのは、カタバミにふくまれているシュウ酸です。シュウ酸は酸の一つで、すっぱいものです。カタバミの他にも、酸をもつ、スイバやイタドリという草、食酢、レモンでみがいても、10円玉はピカピカ明るい色になります。

どうして酸でみがくと色が変わるのでしょいか。

新品の10円玉の色は主な素材の銅の色で、ピカピカ明るいのですが、空気中の酸素で酸化し、表面が黒っぽくなっていきます。酸は、表面の酸化した銅を水にとけるようにします。それをみがいて取り除くと、内側の真新しい銅があらわれるのです。

とても似ているオッタチカタバミ

カタバミはもともと日本国内や世界各地に生えている草です。カタバミによく似ていて、北アメリカから1960年代に日本に入ったオッタチカタバミが、富山県内でもあちらこちらに生えています。オッタチカタバミは、茎の途中から根は出ず、立って生えます。身近な生き物には、いつのまにか、日本にもともといた種類より外国から入ってきた種類が増えていることがあります。オッタチカタバミでもみがけば10円玉はピカピカになりますが、カタバミが多いといいなと思います。(坂井奈緒子)